



問 歴史文化課

☎025-226-2584

小阿賀野川の歴史と役割

江南区と秋葉区の境を流れる小阿賀野川は、阿賀野川から分流し信濃川へ流れ込む川です。自然の川の特徴がありながら、中世に人工的に掘られたという伝承もあり、その起源には謎が多く残っています。

小阿賀野川は阿賀野川と信濃川をつなぐ水路として活用され、江戸時代には会津領の材木が新潟町に運ばれていました。享保16(1731)年の松ヶ崎堀割の決壊がきっかけで、小阿賀野川の流路整備が行われました。これは、阿賀野川からの水の流入を増やし、堀割の決壊で減った信濃川や新潟湊の水量増加と、阿賀野川上流と新潟町との間の舟運維持が目的でした。

小阿賀野川は近代以降も、原油や阿賀野川で採取された砂利の運搬に利用されました。大正2(1913)年、右岸の木津村(江南区)で堤防が決壊し大洪水となった「木津切れ」を機に、阿賀野川水系の改修工事が進みました。小阿賀野川には満願寺閘門と小阿賀樋門が設置され、現在も船の往来や洪水防止に役立っています。



弘化5(1848)年の沢海・横越付近の絵図
(新潟市所蔵)



小阿賀野川と砂利舟の基地
(秋葉区荻島付近、平成6年)